

心尽くしの一服楽しむ

障害者五輪へ慈善茶会

古儀茶道敷内流竹風会小矢部支部のチャリティー茶会（富山新聞社後援）は29日、高岡市福岡町土屋の土屋木楽館で市内外から約300人が参加して開かれた。来場者は地元福岡産の竹のモニュメントが飾られた茶席で、もてなしの一服と竹が生み出す心休まるひとときを堪能した。

高岡・福岡 季節の草花と竹の演出

茶会では、抹茶に南砺市城端の特産品「絹の雫」が使われ、会員がお点前を披露した。来場者はトンボやうちわなど

が描かれた茶わんや、サワキキョウ、ヒヨドリシヨウゴ、歌仙草の3種の草花を生けた一輪挿しに目を向け、季節の演出を

楽しんだ。

茶会は、知的発達障害者のスポーツの祭典「スペンシャルオリンピックス（SO）日本」の東海・北信越アロックス夏季アロックス大会（富山新聞社後援）を支援するため、同支部が企画した。集まった会費は大会運営に寄付する。

竹のモニュメントは五輪の聖火をイメージして土屋自治会の窪谷芳光会長が制作した。

川島恵子支部長は「多くの方の協力で茶会を開催することができた。お茶を通じて交流の輪が広がってほしい」と話した。



心尽くしの一服を届ける
会員

高岡市の土屋木楽館